

平成28年度パワーリフティング協会ドーピング防止講習会予定

第14号議案2

ドーピング防止講習会

平成28年度 平成27年度 平成26年度

全日本男子&女子パワーリフティング選手権大会	大阪府	6月下~7月中	有	有	
				88名参加	
全日本ジュニア&マスターズパワーリフティング選手権大会	兵庫県	5月	有		有
全日本ベンチプレス選手権大会	東京都	11月	有	有	有
				72名参加	
ジャパクラシックパワーリフティング選手権大会	岡崎市	2月	有		全員で44名 が参加
ジャパクラシックベンチプレス選手権大会	静岡県	3月上旬~中旬	有		
ジャパクラシックマスターズパワーリフティング選手権大会	秋田県	9月17日~18日			
実業団パワーリフティング選手権大会	栃木県	10月			

ドーピング防止講習会を増やす事により、レポートによる認定は無くす。

2015年度に世界ドーピング規程が変更になり講習内容も異なる為です。

収 支 予 算 書

第14号議案
3

団 体 名	公益社団法人日本パワーリフティング協会
事 業 細 目 名	スポーツ教室、スポーツ大会等開催（スポーツ）

事 業 名	第21回ジャパングラシックパワーリフティング選手権大会
-------	-----------------------------

(収入) (単位：円)

科 目	金 額	内 容	備 考
く じ 助 成 金	4,786,000		
参 加 料	1,310,000	一般：100人@10,000円 サブジュニア、ジュニア：35人@8,000円 障がい者：10人@3,000円	
自 己 負 担 金	400,000		
協 賛 金	100,000		
補 助 金			
合 計	6,596,000		

(支出) (単位：円)

科 目	事業に要する経費	助 成 対 象 経 費				助 成 対 象 外 経 費		備 考	
		助 成 対 象 経 費 総 額 A		左記のうち、助成対象経費限度額 B		差引 (A-B) (限度を超過した額)	助 成 対 象 外 経 費		
		金 額	内 容	金 額	内 容		金 額		内 容
諸 謝 金	1,150,000	1,120,000	@5,000円×70名×2日(運営スタッフ) @5,000円×40名×2日(審判・陪審)	1,120,000	@5,000円×70名×2日(運営スタッフ) @5,000円×40名×2日(審判・陪審)	0	30,000	大会事務局謝金	
旅 費	1,160,000	1,160,000	スタッフ等交通費@ (平均6,000円) ×111名×2日 県外スタッフ等宿泊費@8,000円×30名×2日	1,160,000	スタッフ等交通費@ (平均6,000円) ×111名×2日 県外スタッフ等宿泊費@8,000円×30名×2日	0			
渡 航 費	1,812,000	1,812,000		1,812,000		0			
滞 在 費	0					0			
借 料 及 び 損 料	306,000	290,000	@70,000円×2日(体育館、会議室等) @30,000円×3セット(器具借料:ﾊﾞｰﾝﾙ、ﾗｯｸ等) @30,000円×2セット(OA機器借料)	290,000	@70,000円×2日(体育館、会議室等) @30,000円×3セット(器具借料:ﾊﾞｰﾝﾙ、ﾗｯｸ等) @30,000円×2セット(OA機器借料)	0	16,000	体重計設置ホテル借料@8,000円×2日	
消 耗 品 費	204,000					0	204,000	Tシャツ(スタッフ等)@1700×120	
ス ポ ー ツ 用 具 費	650,000	650,000	競技用ラック(一式)450,000円 判定機(一式)200,000円	650,000	競技用ラック(一式)450,000円 判定機(一式)200,000円	0			
備 品 費	0					0			
印 刷 製 本 費	330,000	330,000	プログラム@800円×400部 記録表、試技カード(一式)10,000円	330,000	プログラム@800円×400部 記録表、試技カード(一式)10,000円	0			
通 信 運 搬 費	250,000	200,000	器材運搬@40,000円×5セット	200,000	器材運搬@40,000円×5セット	0	50,000	通信・郵送費(一式)50,000円	
委 託 費	0					0			
賃 金	0					0			
会 議 費	0					0			
雑 役 務 費	704,000	550,000	メダル・トロフィー(一式)250,000円 大会幕(一式)300,000円	700,000	メダル・トロフィー(一式)400,000円 大会幕(一式)300,000円	△150,000	154,000	弁当・飲料 @700×110×2日	
補 助 金 ・ 交 付 金	0					0			
	30,000					0	30,000	スポーツ保険(一式)30,000円	
合 計	6,596,000	6,112,000		6,262,000		△150,000	484,000		

6,262,000

JPA専務理事 佐々木健治

SBD社 2016年スポンサード契約

平成27年11月13日にSBD社（イギリス）のスポンサードの契約について、SBDジャパンから説明を受けたので、その概要を以下に示す。

■スポンサード対象大会

- ・2016年世界クラシックパワーリフティング選手権大会（ノーギア3種目）
- ・オープン部門のみ（他の部門は対象外）

■スポンサード詳細

スポンサード種類	スポンサード内容	制約及び条件
チームユニホーム無償提供	日本チーム用（製造） ・ツリパン ・Tシャツ ・ソックス 市販品 ・ニースリーブ ・リストラップ	無償提供はオープン部門のみ。 無償提供を受けたオープン部門の日本チームは、全員が無償提供を受けた製品の着用義務がある。 他の部門は無償適用外であるが、世界クラシックへの参加選手は2割引きで購入できる。この場合、日本チーム全員の着用義務なし。
報奨金	各階級（£ポンド） ・1位 £1250 ・2位 £500 ・3位 £250 ベストリフター ・1位 £1250 ・2位 £500 ・3位 £250	報奨金対象大会は、世界クラシックパワーのオープン部門のみ。他の部門はなし。
写真撮影の使用許可・提供	競技中の写真 10枚程度/人	SBD社が大会会場で撮影を行う。 撮影対象は、世界クラシックパワーのオープン部門のみ。 提供時は、JPG画像と印刷用高解像度画像が提供される。 撮影写真はSBDのPR用写真として使用される。

※上記とは別に、世界クラシックベンチ参加者は、SBD社の製品を2割引きで購入できる。

この場合、日本チーム全員の着用義務はない。

技委発第15-4号通達
平成27年12月6日

関係各位

技術委員長 阿南 喜裕
(公印省略)

ルール変更に関する通達 (案)

2016年IPFルール改正発表に伴い、JPAルールを下記のとおりに変更します。

今回の通達に関する運用は **2016年1月1日**からとしますので、ご理解の上、周知徹底をお願い致します。

1. 世界大会選考会新設に関して

- ① 2016年度からIPF主催大会として、世界クラシックベンチプレス選手権大会が新設される。これに伴い、派遣選手選考会を実施する。
- ② 上記①の選考会は、各前年度のジャパンクラシックベンチプレス選手権大会と指定し、当該大会での結果をもって選考することを原則とする。
- ③ ただし、上記②に示す選考会が世界本戦からさかのぼり3か月以内に実施される際は、選考手続きの関係上、前々年の当該大会を選考会として指定する。
- ④ 選考基準の詳細は、「国際大会派遣選手選考基準」を年度毎に別途定める。

2. 個人用具に関して

- ① 現段階のIPF公認品リスト上で、メタル社製品の一部商品に関して、2015年12月31日をもって公認品リストから削除される予定である。
(以下掲載サイト先参照)
http://www.powerlifting-ipf.com/fileadmin/ipf/data/rules/approved-list/IPFV4_final_Approved_List_01.07.2015.pdf
- ② 上記に関し、国内での対応は、2017年12月31日まではIPF公認品と同等に扱い猶予期間を設け、その期間は全国大会、日本記録挑戦時も使用可能とする。ただし、2018年1月1日以降は、国内すべての競技会で使用を認めない。
- ③ 2016年1月1日以降、IPFとしての対応に変更があれば、上記①②に関してもこの限りではない。

《問い合わせ先》

TEL 090-4140-8270 (22時以降)

FAX 086-899-6970

メール anany1975@yahoo.co.jp

JPA 技術委員会 阿南 喜裕

国際大会派遣選手選考基準（案）

＜ 2016年度／平成28年度＞

平成27年12月6日
JPA技術委員会

国際大会派遣選手選考規程第2条第2項の規定に基づいて、以下のとおり定める。

1 国際大会の選考大会

・2016年度における国際大会の参加選手の選考大会となる全日本選手権大会は、次のとおりとする。

世界男子・女子パワーリフティング選手権大会	2016年度全日本男子・女子パワーリフティング選手権大会（6月・兵庫）
世界マスターズパワーリフティング選手権大会	2016年度全日本マスターズパワーリフティング選手権大会（6月・兵庫）
世界ジュニアパワーリフティング選手権大会	2016年度全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会（6月・兵庫）
世界サブジュニアパワーリフティング選手権大会	2015年度全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会（3月27日・埼玉）
世界クラシックパワーリフティング選手権大会（ノーギア）（全カテゴリー含む）	・（マスターズ以外）2015年度ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会（2月27－28日・千葉） ・（マスターズ）2015年度ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会（2015年9月12－13日・石川）
世界学生パワーリフティング選手権大会	全日本学生パワーリフティング選手権大会（年月日）
世界ベンチプレス選手権大会（ジュニア・サブジュニア含む）	2015年度全日本ベンチプレス選手権大会（2015年10月31－11月1日・岐阜）
世界マスターズベンチプレス選手権大会	2015年度全日本マスターズベンチプレス選手権大会（2015年10月31－11月1日・岐阜）
世界ジュニア・サブジュニアベンチプレス選手権大会	2015年度全日本ジュニア・サブジュニアベンチプレス選手権大会（2015年10月31－11月1日・岐阜）
世界クラシックベンチプレス選手権大会（ノーギア）（全カテゴリー含む）	2014年度ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会（2015年2月21－22日・茨城）
アジアパワーリフティング選手権大会	・（一般）2015年度全日本男子・女子パワーリフティング選手権大会（2015年6月27－28日・神奈川） ・（ジュニア・マスターズ）2015年度全日本ジュニア・マスターズパワーリフティング選手権大会（2015年5月30－31日・岩手） ・（サブジュニア）2015年度全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会（3月27日・埼玉）
アジアクラシックパワーリフティング選手権大会（ノーギア）	・（マスターズ以外）2015年度ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会（2月27－28日・千葉） ・（マスターズ）2015年度ジャパンクラシックマスターズパワーリフティング選手権大会（2015年9月12－13日・石川）
アジアベンチプレス選手権大会	2015年度全日本ベンチプレス選手権大会（全カテゴリー）（2015年10月31－11月1日・岐阜）
アジアクラシックベンチプレス選手権大会（ノーギア）	2015年度ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会（全カテゴリー）（3月12－13日・高知）

・上記以外の国際大会については、その都度、選考条件等を明確にして対応する。

2 国際大会参加標準記録

(1) 世界男子・女子

選考大会となる全日本男子・女子パワーリフティング選手権大会において3位以内に入賞し、かつトータルが一般の全日本大会参加標準記録の105%以上。

(2) 世界マスターズ

選考大会となる全日本マスターズパワーリフティング選手権大会において4位以内に入賞し、かつトータルが一般の全日本大会参加標準記録に対して、マスターズⅠは90%以上、マスターズⅡは85%以上、マスターズⅢは80%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

(3) 世界ジュニア

選考大会となる全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会において3位以内に入賞し、かつトータルが一般の全日本参加標準記録の90%以上。

※女子43kg級は215kg、男子53kg級は412.5kgを参加標準記録とする。

(4) 世界サブジュニア

選考大会となる全日本サブジュニアパワーリフティング選手権大会において3位以内に入賞し、トータルが一般の全日本参加標準記録の75%以上。

※女子43kg級は180kg、男子53kg級は345kgを参加標準記録とする。

※高校連盟との申し合わせにより、選手枠に空きがある場合は、そのクラスの準優勝者で国際大会参加標準記録を達成した競技者の中から、フォーミュラの高い順に選考する。ただし、辞退者がいても繰り上げない。

(5) 世界クラシックパワー

・一般（シニア）については、選考大会となるジャパクラシックパワーリフティング選手権大会において3位以内に入賞し、かつトータルがノーギア一般の全日本参加標準記録の105%以上。

※女子の参加標準記録基準値は、フルギア一般女子標準記録の75%の値を代用する。

・マスターズについては、選考大会となるジャパマスターズクラシック選手権大会において4位以内に入賞し、かつトータルがノーギア一般の全日本大会参加標準記録に対して、マスターズⅠは90%以上、マスターズⅡは85%以上、マスターズⅢは80%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

・ジュニアについては、選考大会となるジャパクラシックパワーリフティング選手権大会（ジュニア）において3位以内に入賞し、かつトータルがノーギア一般の全日本参加標準記録の90%以上。

・サブジュニアについては、選考大会となるジャパクラシックパワーリフティング選手権大会（サブジュニア）において3位以内に入賞し、記録がノーギア一般の全日本標準記録の75%以上。

※ジュニア女子43kg級は155kg、男子53kg級は310kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は127.5kg、男子53kg級は257.5kgを参加標準記録とする。

※女子の参加標準記録基準値は、フルギア一般女子標準記録の75%の値を代用する。

(6) アジアパワー（シニア・マスターズ・ジュニア・サブジュニア）

・各選考大会において4位以内に入賞していること。

・一般（シニア）については、選考大会となる全日本男子・女子パワーリフティング選手権大会において、トータルが一般の全日本参加標準記録の100%以上。

・マスターズ、ジュニア、サブジュニアの選手については、選考大会となる全日本マスターズ、ジュニア、サブジュニア選手権大会において、トータルが一般の全日本参加標準記録に対して、ジュニア・マスターズⅠは85%、マスターズⅡは80%、サブジュニア・マスターズⅢは70%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

※ジュニア女子43kg級は202.5kg、男子53kg級は390kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は167.5kg、男子53kg級は320kgを参加標準記録とする。

(7) アジアクラシックパワー（シニア・マスターズ・ジュニア・サブジュニア）

・各選考大会において4位以内に入賞していること。

・一般（シニア）については、選考大会となるジャパクラシックパワーリフティング選手権大会において、トータルがノーギア一般の全日本参加標準記録の100%以上。

※女子の参加標準記録基準値は、フルギア一般女子標準記録の75%の値を代用する。

・マスターズ、ジュニア、サブジュニアの選手については、選考大会となる各種ジャパクラシックマスターズ、ジュニア、サブジュニア選手権大会において、トータルが一般の全日本参加標準記録に対して、ジュニア・マスターズⅠは85%、マスターズⅡは80%、サブジュニア・マスターズⅢは70%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

※ジュニア女子43kg級は142.5kg、男子53kg級は292.5kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は117.5kg、男子53kg級は240kgを参加標準記録とする。

(8) 世界ベンチプレス

選考大会となる全日本ベンチプレス選手権大会において3位以内に入賞し、かつ記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録の125%以上。

(9) 世界マスターズベンチプレス

選考大会となる全日本マスターズベンチプレス選手権大会において4位以内に入賞し、かつ記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録に対して、マスターズⅠは100%、マスターズⅡは90%、マスターズⅢは80%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

(10) 世界ジュニア・サブジュニアベンチプレス

・ジュニアについては、選考大会となる全日本ジュニアベンチプレス選手権大会において3位以内に入賞し、かつ記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録の100%以上。

・サブジュニアについては、選考大会となる全日本サブジュニアベンチプレス選手権大会において3位以内に入賞し、記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録の80%以上。

※ジュニア女子43kg級は55kg、男子53kg級は120kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は42.5kg、男子53kg級は95kgを参加標準記録とする。

(11) 世界クラシックベンチプレス

・各選考大会において3位以内に入賞していること。

・一般（シニア）については、選考大会となるジャパクラシックベンチプレス選手権大会において、記録が一般のジャパクラシックベンチプレス参加標準記録の125%以上。

※女子の参加標準記録基準値は、フルギア一般女子標準記録の75%の値を100%として代用する。

・マスターズ、ジュニア、サブジュニアの選手については、選考大会となるジャパクラシックマスターズ、ジュニア、サブジュニアベンチプレス選手権大会において、記録が一般のジャパクラシックベンチプレス参加標準記録の、ジュニア・マスターズⅠは85%、マスターズⅡは80%、サブジュニア・マスターズⅢは70%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

※ジュニア女子43kg級は32.5kg、男子53kg級は75kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は27.5kg、男子53kg級は62.5kgを参加標準記録とする。

(12) アジアベンチプレス

・各選考大会において4位以内に入賞していること。

・一般（シニア）については、選考大会となる全日本ベンチプレス選手権大会において、記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録の100%以上。

・マスターズ、ジュニア、サブジュニアの選手については、選考大会となる全日本マスターズ、ジュニア、サブジュニアベンチプレス選手権大会において、記録が一般の全日本ベンチプレス参加標準記録の、ジュニア・マスターズⅠは85%、マスターズⅡは80%、サブジュニア・マスターズⅢは70%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

※ジュニア女子43kg級は45kg、男子53kg級は100kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は37.5kg、男子53kg級は82.5kgを参加標準記録とする。

(13) アジアクラシックベンチプレス

・各選考大会において4位以内に入賞していること。

・一般（シニア）については、選考大会となるジャパクラシックベンチプレス選手権大会において、記録が一般の全日本ジャパクラシックベンチプレス参加標準記録の100%以上。

※女子の参加標準記録基準値は、フルギア一般女子標準記録の75%の値を100%として代用する。

・マスターズ、ジュニア、サブジュニアの選手については、選考大会となるジャパクラシックマスターズ、ジュニア、サブジュニアベンチプレス選手権大会において、記録が一般のジャパクラシックベンチプレス参加標準記録の、ジュニア・マスターズⅠは85%、マスターズⅡは80%、サブジュニア・マスターズⅢは70%以上。マスターズⅣは記録を定めない。

※ジュニア女子43kg級は32.5kg、男子53kg級は75kgを参加標準記録とする。

※サブジュニア女子43kg級は27.5kg、男子53kg級は62.5kgを参加標準記録とする。

(14) 世界学生パワー

別途定めるものとする。

3 選考方法（国際大会派遣選手選考規程第3条、第6条及び第8条に準拠する）

- ・上記「1」に示す国際大会の選考大会にて、各国際大会の参加標準記録を突破した選手に、国際大会参加権利が与えられる（優勝しても上記参加標準記録を突破していなければ選考対象にならない）。
- ・選手選考では、原則として各階級1名を選考する。但し、空き枠の発生により同階級内2名までの選考を認めることがある。
- ・選考の時点では、いかなる場合も選考会出場階級以外での国際大会参加権利は与えられないものとする（選手団結成後において、階級変更が生じる場合、各国際大会選手団長の判断に委任する。但し、同じクラスに3名の選手が出場を希望した場合、そのクラスの優勝者が最優先となり、あとはフォーミュラの高い方が優先となる）。
- ・選考の優先順位は次の通りである。
 - ① そのクラスの優勝者で上記国際大会の参加標準記録を突破している者。
 - ② 上記①の該当者が辞退した場合、辞退者と同階級の2位の選手で上記国際大会の参加標準記録を突破している者。
 - ③ この時点で空き枠が発生する場合、②に該当しない各階級2位の選手で上記国際大会の参加標準記録を突破している者の中から、フォーミュラの高い順に選考する。
 - ④ この時点で空き枠が発生する場合、②及び③の選考方法に準じ3位、またはそれ以下に繰り下げて選考する。

4 選手選考における付加条件

- ・カレンダーイヤーで、国際大会の出場時点ではマスター各カテゴリーであるが、選考大会の開催時点では、そのカテゴリーに達していない競技者の場合、選考大会時は適正カレンダーイヤーのカテゴリーで出場し、国際大会出場予定時の該当カテゴリーでの選考対象に加える。
- ・優勝者のカテゴリーが変わり、空き枠が発生した場合、2位以下をそれぞれ繰り上げて選考する。
- ・マスターズクラスの選考に関しては、各選手の出場年齢カテゴリーごとに選考する。

例1：選考大会出場時はカレンダーイヤー39歳だが、国際大会出場時は40歳になる場合。

⇒選考大会となる全日本マスターズ選手権大会はオープンで参加し、マスターIの優勝者と記録を比べ、上回った方が優先権を得る。

例2：選考大会出場時はカレンダーイヤー49歳だが、国際大会出場時は50歳になる場合。

⇒選考大会となる全日本マスターズ選手権大会はマスターIで参加し、マスターIIの優勝者と記録を比べ、上回った方が優先権を得る。

5 その他

- ・技術委員会及び国際委員会は、選手団の編成や国際大会選手派遣に関する業務に支障を来す言動を取る競技者がいる場合、当該競技者を選考対象及び選手団の編成から外することができる。

以上

関係各位

技術委員長 阿南 喜裕
(公印省略)

平成29年度 JPAが主催する全国規模の競技会における出場標準記録について(案)

1. 出場標準記録を設ける競技会

- 1-1. 表1に定める全国規模競技会(以下、「全国大会」と称す)においては「出場標準記録」を設けるものとし、選手はその記録以上の実績を有していなければならない。尚、出場標準記録は、性別、年齢カテゴリー、階級ごとに設けるものとし、その記録は別表による。

【表1】 JPAが出場標準記録を設定する全国大会

競技会名	出場標準記録	男子 実施カテゴリー				女子 実施カテゴリー			
		一般	サブ ジュニア	ジュニア	マスターズ I~IV	一般	サブ ジュニア	ジュニア	マスターズ I~IV
1 全日本男子パワーリフティング選手権大会	表2	◎	-	-	-	-	-	-	-
2 全日本女子パワーリフティング選手権大会	表2	-	-	-	-	◎	-	-	-
3 全日本サブジュニアパワーリフティング選手権大会	表2	-	◎	-	-	-	◎	-	-
4 全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会	表2	-	-	◎	-	-	-	◎	-
5 全日本マスターズパワーリフティング選手権大会	表2	-	-	-	◎ *1	-	-	-	◎ *1
6 全日本ベンチプレス選手権大会	表3	◎	-	-	-	◎	-	-	-
7 全日本サブジュニアベンチプレス選手権大会	表3	-	◎	-	-	-	◎	-	-
8 全日本ジュニアベンチプレス選手権大会	表3	-	-	◎	-	-	-	◎	-
9 全日本マスターズベンチプレス選手権大会	表3	-	-	-	◎ *1	-	-	-	◎ *2
10 ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会	表4	◎	◎	◎	◎ *1	◎ *3	◎ *3	◎ *3	◎ *3
11 ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会	表5	◎	◎	◎	◎ *1	◎ *4	◎ *4	◎ *4	◎ *4

※上記1~9:フルギア大会、10~11:ノーギア大会

- 1-2. 以下のカテゴリーについては、出場標準記録を設けないものとする。

- *1. 全ての全国大会における、マスターズIV部門。(カレンダーイヤーによる70歳以上)
- *2. 全日本マスターズベンチプレス選手権大会における、女子マスターズの全部門
- *3. ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会における、女子の全部門。
- *4. ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会における、女子の全部門。

2. 選手の実績として認められる有効期間と競技会

- 2-1. 選手の実績は、次に定める期間および競技会における成績を有効とする。

- 2-2. 有効期間は、当該全国大会の前年度開催日の初日から、当年度の申込み締切日までとする。(大会当日の記録を含む)
但し、その期間が6ヶ月未満となる場合は、別途定めるものとする。

- 2-3. 有効とする競技会は、以下のとおりとする。

- 1) 日本国内で開催されるJPA公認競技会であること。

例1) 平成29年度全日本マスターズパワーリフティング選手権大会においては、平成28年度の同大会の成績は有効である。

また、同大会以降開催の他の全国大会(全日本男女パワーリフティング選手権大会等)の成績も有効である。

- 2) IPF・APF主催ならび傘下協会主催の各世界選手権大会

原則として、カテゴリー(フルギア/ノーギア)、および競技種別(パワーリフティング/ベンチプレス)は同一であること。

パワーリフティング競技会のベンチプレス種目の記録がシングルベンチプレス競技の標準記録を突破した際は、従来通りそれを認める。

但し、ノーギア大会でフルギア全国大会の標準記録を突破した場合は、それを認める。

例1) フルギア大会での成績が、ノーギア全国大会の標準記録を超えていたとしても、それへの出場はできない。

- 2-4. マスターズIV等標準記録を定めないカテゴリーでも、上記2-2.で定められた期間内に最低1回以上の公式戦参加が必要となる。

参加が無い場合は、標準記録の有無にかかわらず、当該競技会への参加要件を満たさないものとして扱う。

なお、この項は、平成27年6月1日以降に実施される全国規模競技会すべてに適用される。

3. 実績と異なる階級への出場について

選手は、標準記録以上の成績を納めた際の階級と異なる階級へは、出場はできないものとする。

但し、体重より更に重い階級の標準記録を突破している場合のみ、その重い階級への出場は認められる。

例1) 74kg級で出場した際に、83kg級の標準記録まで突破している選手は、66kg級へは出場できないが、83kg級には出場できる。

4. 推薦枠について

4-1 全日本パワーリフティング選手権大会においては、標準記録に満たない選手であっても、次の基準においてブロック推薦選手および学連推薦選手の出場を認めることができる。

1) ブロック推薦枠

・都道府県大会優勝者またはブロック大会上位入賞者であり、当該ブロック長の推薦があり技術委員会が認めた選手は、ブロック毎に男女合計3名までの出場を可能とする。

・ブロックはJPA組織体系による次の8ブロックとする。

①北海道・東北、②関東、③東海、④北信越、⑤近畿、⑥中国、⑦四国、⑧九州・沖縄

2) 学連推薦枠

・全日本学生選手権大会優勝者であり、全日本学生連盟理事長の推薦があり技術委員会が認めた選手は、男女合計3名までの出場を可能とする。

4-2. 全日本ベンチプレス選手権大会においては、標準記録に満たない選手であっても、次の基準において、ブロック推薦選手の出場を認めることができる。

1) ブロック推薦枠

・都道府県大会優勝者またはブロック大会上位入賞者であり、当該ブロック長の推薦の上、技術委員会が認めた選手は、ブロック毎に男女合計3名までの出場を可能とする。

・ブロックはJPA組織体系による次の8ブロックとする。

①北海道・東北、②関東、③東海、④北信越、⑤近畿、⑥中国、⑦四国、⑧九州・沖縄

4-3. 出場標準記録を有するJPA主催の全ての全国規模競技会においては、標準記録に満たない選手であっても、前項5-1および5-2にかかわらず、次の基準において大会主管協会推薦の選手の出場を認めることができる。

1) 大会主管協会推薦枠

・大会を主管する都道府県協会に登録している選手であり、主管協会理事長の推薦の上、技術委員会が認める選手は、男女合計3名までの出場を可能とする。

4-4. 上記いずれの推薦枠行使に際しても、当該競技会の標準記録獲得期間内に公式競技会に出場した選手であり、かつ当該競技会申込締切前に事前に推薦手続きならび出場申込が完了した場合に限り有効とする。

【表2】各全日本パワーリフティング選手権大会、出場標準記録

	階級 kg級	一般	ジュニア マスターズⅠ	マスターズⅡ	サブジュニア マスターズⅢ
男子	53 ※	-	415	-	280
	59	515	465	410	310
	66	570	515	455	340
	74	620	560	500	370
	83	670	605	535	400
	93	710	640	570	425
	105	745	670	600	450
	120	775	700	620	465
	+120	790	710	635	475
女子	43 ※	-	210	-	140
	47	255	230	200	155
	52	280	250	225	170
	57	300	270	240	180
	63	315	285	250	190
	72	330	300	260	200
	84	345	310	270	205
	+84	350	315	275	210

【表3】各全日本ベンチプレス選手権大会、出場標準記録

	階級 kg級	一般	ジュニア マスターズⅠ	サブジュニア マスターズⅡ	マスターズⅢ
男子	53 ※	-	107.5	97.5	-
	59	135	120	107.5	87.5
	66	147.5	132.5	117.5	95
	74	160	145	127.5	105
	83	172.5	155	137.5	115
	93	185	165	147.5	122.5
	105	195	175	155	130
	120	200	180	160	135
	+120	205	185	165	140
女子	43 ※	-	50	45	-
	47	60	55	47.5	-
	52	65	60	50	-
	57	70	65	55	-
	63	75	70	60	-
	72	82.5	75	65	-
	84	90	80	70	-
	+84	95	85	75	-

(女子マスターズには標準記録を設定しない)

【表4】ジャパクラシックパワーリフティング選手権大会、出場標準記録

	階級 kg級	一般	ジュニア マスターズⅠ	マスターズⅡ	サブジュニア マスターズⅢ
男子	53 ※	-	310	-	190
	59	385	345	310	210
	66	425	380	340	235
	74	465	415	370	255
	83	500	450	400	275
	93	530	480	425	290
	105	560	505	445	310
	120	580	520	465	320
	+120	590	530	475	325

【表5】ジャパクラシックベンチプレス選手権大会、出場標準記録

	階級 kg級	一般	ジュニア マスターズⅠ	サブジュニア マスターズⅡ	マスターズⅢ
男子	53 ※	-	82.5	72.5	-
	59	100	90	80	65
	66	110	100	90	72.5
	74	120	110	97.5	80
	83	130	117.5	105	85
	93	140	125	112.5	90
	105	147.5	132.5	120	95
	120	155	140	125	100
	+120	160	145	130	105

【表2～5共通】 ※印の階級は、ジュニア、サブジュニアのみ対象

平成27年11月1日

国内1級・2級審判員 各位

スポーツ医科学委員会
委員長 蜂須 貢
(公印省略)

国内審判員対象の普通救命講習受講についてお願い

近年、スポーツが国民に広く浸透したことにより、様々なスポーツで一般選手はもとより中高年選手も増加傾向にあり、それに伴い突然死を伴う不慮の事故が増加しています。過去には、スカッシュ中の高円宮様の急逝、名古屋シティマラソンでは女性1名が福知山マラソンでは男性2名が相次いで競技中に亡くなりました。いずれも突然の心停止によるものですが、パワーリフティング競技も例外なく常に危険は内在しています。

本委員会は、大会中の事故を防止するとともに、万一事故発生の際は的確な救命処置を行い、全ての選手および大会関係者の安全を確保するため、より多くの救命の心得のある方を増やすことが必要と考え、下記の通り救命講習修了者の養成を目指すことと致しました。ついては、検量や審判実務で最も選手に近い位置におられる審判員資格者を中心に養成を図ることと致しますので、本通達の趣旨をご理解の上、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

救命講習受講証明書取得の便宜を図るため、消防署の職員の方に出張して頂き、競技会中に講習を行うことなどを考えましたが、消防署は市町村単位で設置されていることから、ブロックあるいは県単位で行われるパワーリフティング大会で講習をしても受講証明書を受領できる人とそうでない人がでるため、各人で自分の居住している市町村の消防署で講習を受けて頂くこととさせて頂きました。費用は若干の違いはありますが、消防本部あるいは日本赤十字社各県支部が実施する「普通救命講習（3時間）」は1,500円程度です。また、月にそれぞれ2回程度ウイークデイと週末に行っています。各自の居住する市町村の消防署などでの講習日を調べて都合の良い日に受講して頂きたいと思えます。

記

1 対象者 : 国内1級・2級審判員のうち、下記2の救命講習を修了していない方。

2 対象講習 : 各地の消防本部が実施する普通救命講習及び日本赤十字社各県支部が実施する救急法基礎講習の講習。ただし、当面、日本体育協会公認指導員養成講習会で実施される救急処置法のカリキュラムを修了された方も救命講習受講者として認めます。

3 取得期間 : 平成27年11月1日より平成28年10月31日

4 報 告 : 上記2の救命講習等を受講し修了証等の交付を受けた方は、速やかにその写しを本委員会担当者(下記)へメールあるいは封書で提出して下さい。

5 提 出 先 : 〒 781-0241 高知県高知市横浜新町四丁目931番地

(公社) 日本パワーリフティング協会 スポーツ医科学委員会 救命講習担当 神岡 俊輔宛

電話 090-4782-1241、メールアドレス kcfd119@ray.ocn.ne.jp

以上